

女性の社会的地位を向上させるには

How to improve the social status of women

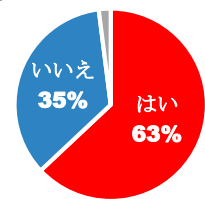
Abstract : The purpose of this study is to investigate what factors prevent Japanese women from improving their social status. Our survey showed that the proportion of women in managerial positions in schools was very low as they were more burdened with housework than men. Interviews with working women revealed women have a more negative mindset and have to be more ambitious to improve their overall social status.

Keywords: social status of women, female manager, burden of housework, ambitious

1 研究背景

昨年の先輩方の研究で国分高校保護者の方々に「家事が負担になっているか」というアンケートを行ったところ「はい」と答えた人が約60%いた。(図1)このことから女性が家事を負担に思っていることが分かった。そこで、「女性の社会的地位の向上を妨げている要因が家事の負担にあるのではないか」と仮説を立てて、研究を始めた。

図1



2 研究目的

日本における女性の社会的地位の現状を把握し、家事の負担割合等を調査したり女性の管理職の方にインタビューをしたりすることで、その要因を探る。さらに、女性が輝ける社会の実現に向けて新たな提言を行う。

3 研究方法

(1)男性と女性の社会的地位の差を明確にするための一つの尺度として学校の管理職に着目し、「2019年度版鹿児島県教職員録」を用いて、鹿児島県における教諭・管理職の男女比を小・中・高、男女別に正の字でカウントした。

(2)男女の家事の割合を比較するために鹿児島県立国分高等学校の1年生(計319人)、熊本県立宇土中学校・高等学校、熊本県立真和高等学校、長崎県立佐世保西高等学校、佐賀県立致遠館中学校・高等学校、大分県立日田高等学校、福岡県立久留米信愛中学校・高等学校、広島県立S高等学校、岐阜県立本巣松陽高等学校(計597人)、マレーシアのセントフランシス高等学校(計8人)にアンケート調査を行った。子供の目線でざっくりと男性・女性・子供の負担割合を数値で記入してもらった。また、マレーシアの高校生が交流に訪れた際に引率の先生に女性の管理職について聞き取り調査を行った。

(3)女性管理職である霧島市教育委員会学校教育課近藤伸子様、鹿児島県立甲南高等学校西橋瑞穂校長先生、鹿児島県立国分高等学校有村光代事務長へのインタビューを行った。

4 結果

(1)鹿児島県の公立学校における教諭・管理職の男女比

小学校では、教諭は女性の方が多い(54.6%)にも関わらず、管理職の女性は教諭の割合から期待される数よりずっと少ない(14.0%)。(図2)中学校では、女性の教諭は小学校と比べて少なくなる(33.7%)が、女性の管理職は教諭の割合から期待される数より有意に少ない(10.4%)。(図3)高校では、女性

教諭の割合が中学校よりさらに少なく(30.0%), 女性管理職に至っては極めて少ない(5.0%)。(図4)

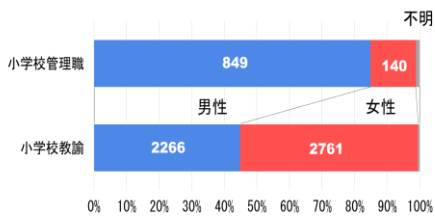


図2. 小学校における教諭・管理職の男女比

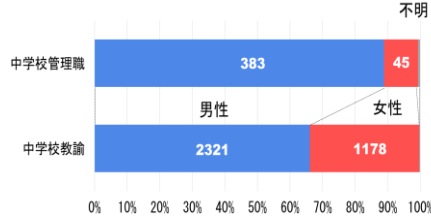


図3. 中学校における教諭・管理職の男女比

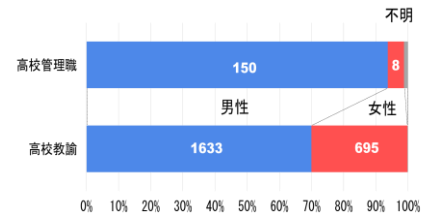


図4. 高校における教諭・管理職の男女比

(2)家庭における男女の家事負担割合

①国分高校1年生 (n=319) (図5)

・家事の負担割合は多くの家事において男性約20%, 女性約70%となっており, 男性と女性の家事の負担の格差が明確になった。

・ゴミ出しにおける男性の負担割合が他の家事より多いのは, 出勤のついでに短時間でできるからだと思われる。

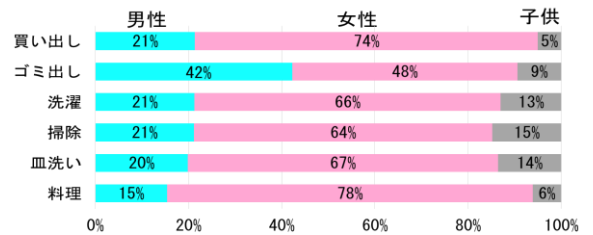


図5. 国分高校1年生の家庭における男女の家事負担割合

②他県の学校 (熊本県, 大分県, 長崎県) (図6)

・男女の家事の負担割合は国分高校(鹿児島県)と大きな差はみられなかった。

・男性のゴミ出しの割合は約4割で他の5校も同様の結果がみられた。

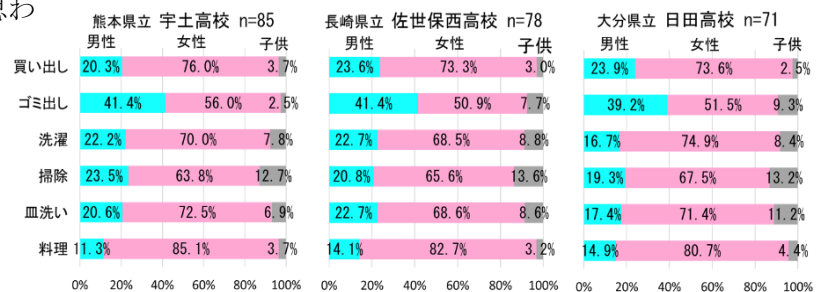


図6. 他県3校の家庭における男女の家事負担割合

③セントフランシス高校 (マレーシア) (n=8) (図7)

・男女の家事の負担割合に大きな差はなかった。

・日本に比べて男性の買い出しの割合が大きい。それに対してゴミ出しの割合が小さい。

・子供の家事負担の割合が大きい。

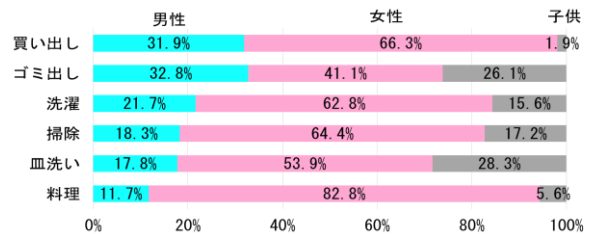


図7. マレーシアの家庭における男女の家事負担割合

(3)マレーシアにおける教諭・管理職の男女割合 (図8)

・女性の管理職の割合は女性の教諭の割合に比べて少ないものの, 鹿児島県の高校に比べて教諭が約2倍, 管理職が約4倍と共に高いことが分かる。

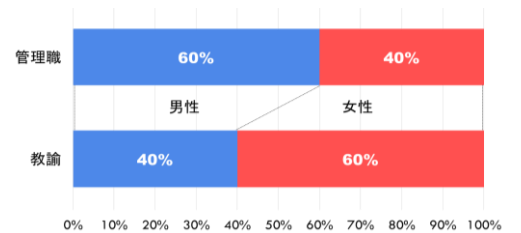


図8. マレーシアにおける教諭・管理職(概数)

(4)女性管理職の方へのインタビュー (元校長, 校長, 事務長等)

・女性の管理職の割合が男性より低いのはなぜだと考えられますか?

→管理職になりたいと思っていない女性が多いのでは?

→これまでの環境と受けてきた教育が影響していると思う。

→モデルが少ないことで生じている悪循環ではないか?

・女性の管理職の割合を増やすためにはどうすればよいと考えますか?

→外国では小学生でも自分の意見をはっきり言えるが, 日本人は自己主張をすることに慣れていない。男子も女子も小さい時から正しい自己主張をする土壌(教育と環境)が必要なのでは。

→外国は管理職の給与が高く, 希望者も多い。待遇面を改善しては。

→育児休暇を取りやすく、元のポジションに戻りやすい法的な整備を。

・今後、女性の管理職の割合は増えていくと思いますか？

→増えると思う。なぜなら仕事に就く女性が増加しているから。

→女性を輝かせるためにどうすれば良いか考える男性がいれば現状を改善することができると思う。

5 考察

(1)鹿児島県の公立学校における小・中・高の女性の管理職の数は、教諭の割合から期待される数に比べて有意に少ない (X^2 検定 $p < 0.05$)。女性は産休や育休などを取っている場合もあるため、管理職になる数が少ないのではないか。

(2)マレーシアでは女性の管理職が日本よりはるかに多いが、家事負担の割合には大きな差が見られなかったことから、家事の負担だけが女性の社会的地位の向上を阻んでいる要因ではないと考えられる。

(3)女性管理職へのインタビューを通して、「女性側の意識」にも問題があることが示唆された。

6 結論・提言

「家事の負担の大きさが女性の社会的地位の向上を妨げているのではないか」と仮説を立てて研究を進めたが、日本とマレーシアの家事の負担割合に大きな差がなかったことから、仮説は正しいとは言えないことが分かった。女性自身が社会的地位を向上させようという意識（志）を持つこと、そしてそう思える環境と教育、男性側の理解と協力も必要である。悪循環から脱却して女性の社会的地位を向上させ、女性の能力を最大限に発揮できる（輝ける）社会を実現するべきである。

提言 女性の社会進出・社会的地位の向上を目指して、家庭では夫婦で、家族で、もっと家事を分担する。職場、家庭での男性の理解と協力が必要である。そして、「Girls, be ambitious! (少女よ、女性よ、大志を抱け)」。

7 参考文献, 引用文献

- ・「2019年度版 鹿児島県教職員録」, 鹿児島県
- ・全国高等学校長協会, 「令和元年度版 全国高等学校一覧」, 学事出版株式会社
- ・独立行政法人国立女性教育会館 (2018), 「学校教員のキャリアと生活に関する調査」, 研究国際室
- ・OECD 編著, 濱田久美子訳 (2018), 「図表でみる男女格差 OECD ジェンダー白書 2ー今なお蔓延する不平等に終止符を!」, 明石書店
- ・坂東眞理子 (2016), 「女性リーダー4.0 新時代のキャリア術」, 毎日新聞出版
- ・有川真由美 (2015), 「人にも時代にも振りまわされないー働く女の仕事のルール 貧困と孤独の不安が消える働き方」, きずな出版
- ・経済産業政策局経済社会政策室, 「平成 26 年度女性の活躍推進のための家事支援サービスに関する調査」
- ・独立行政法人労働政策研究・研修機構 (2017), 「データブック国際労働比較 2017 第 3-4 表 性別・職業別就業者」